



みんな村通信 vol.1

～成田周辺農村への架け橋を作ります～



こんにちは。みんなの農村ネットワーク 片岡です。今年で6年目となる「食と命の教室」へようこそ！高柳さんのお話とはまた違ったメッセージをお届け出来ればと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

■「生きること」とは「営むこと」「生活すること」

第1回目の通信は、私の自己紹介を兼ねた経験談を書きますね。私は9年ほど前に農村生活に足を踏み入れたのですが、それまでは1年360日、毎日16時間ぐらい働くバリバリの企業戦士でした。リーマンショックのあった2008年の秋に病気で会社を1週間ほど休むことになり、たまたま家にあった「半農半Xの種を播く」という本を見て、ぶらりと千葉県鴨川市にある「鴨川自然王国」や、いすみ市の「ブラウズ・フィールド」に出かけてみました。そこで鴨川を代表する林良樹さん、マクロビ界では有名な中島デコさんに出会い、自分の生活とはまるで違い、想像もしたことが無い人、生き方に「こんな人達がいるんだ！」と衝撃を受けたのを今でも懐かしく思います（笑）そこで初めて素足で田んぼに入り、玄米のご飯を食べ、なんだかとっても良い気分になって帰ってきました。

それから週末になると各地を訪ね歩くことになりました。埼玉県小川町の有機農業界を代表する金子さん、神崎町の不耕起栽培の田んぼ、そして鴨川自然王国の「里山帰農塾」という合宿にも参加し、「長老の話聞く会」で林さんの家に泊まり、神社や山や伝統に根ざして生きている方々と触れあいました。小学生の高学年の頃から、漠然と「生きることは何なんだろう？」と疑問を持ち、「空いた時間を埋める」という感じで生きてきましたが、農村の暮らしに触れることで、「人はご縁によって生きている。そして生活をきちんとすることこそ生きることなんだ」ということに気づいたので

す。そして翌年3月に退職し、農村生活に足を踏み入れました。それから紆余曲折がありましたが、原発事故をきっかけに「子供たちに対し、大人として責任ある生き方をする」と決め、「みんなの農村ネットワーク」を立ち上げました。

自分で畑をし、農家さん達と過ごしていると「自然の流れに合わせて生活すること」「地域の繋がりやご縁で生きること」が人間らしい豊かな生き方なんだと思います。会社の目標や誰かの意図に従って生きていくのは、どこかで無理をしているんですね。

春になればアブラナ科は菜花をつけ、夏は体を冷やしてくれるキュウリなどの野菜が実ります。秋は冬に向けて沢山の収穫物がとれますし、冬は味噌やたくあんなど発酵食品や貯蔵したもので体を引き締める。そういった自然の流れに合わせた暮らしは、人間にとっても無理が無く心地良いものです。

「生きることは生活すること」。そんなことがまだまだ日本の農村にはわずかながら残っています。この教室では、その生活体験を少しでもして頂き、みなさんの何かしらのきっかけにして頂けたらな～と思っています。

■今の時期の畑作業



3月に向けて、畑の準備を整える



今の時期は畑の草取りや土作りが中心です。プロは人参やミニトマトなどの種まき、ジャガイモの種イモの植え付けをしますが、家庭菜園レベルでは3月からが良いと思います。その前に草を取り、元肥えなどを入れて土作りをしたり、昨年に植え付けたニンニクや玉ねぎなどに必要に応じて追肥をするぐらいです。そして「今年はどこにどんな野菜を作ろうかな？」といった作付けを考えるのも今の時期の仕事（楽しみ？）ですよ。

ということで、家庭菜園の本を読んだり、畑が無い方はプランターや土を買うなどして、何を今年は自分で育て、食べてみたいか、色々考えてみましょう♪

■今月のお勧め：サティシュ・クマール

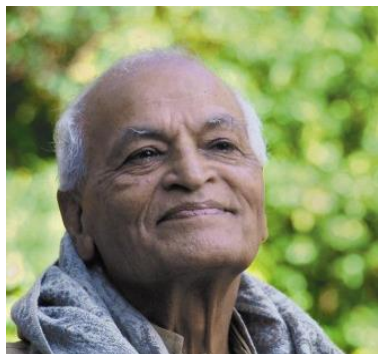
DVD:今、ここにある未来

世界中から、そして私も敬愛するサティシュ・クマールさん。ガンジーの孫弟子にあたる現在81歳の偉大な人物です。

若かりし頃、年老いた先人が核反対運動を行っていることを知り、「若い自分が何をやっているんだ！」と奮起し、核を持つ2大大国のソ連とアメリカ、合計1,4万kmをお金も何も持たず2年半かけて歩き通し核廃絶を訴えました。争っている隣国に丸腰で行くのを止めようとした友人もいましたが、行ってみるとどの国でも必ず助けてくれる人がいたそうです。そこで経験したことを「自分がインド人として歩けば、インド人として見られたでしょう。お金を持って歩けばお金を持っている人と見られたでしょう。でも人間として歩いたから、世界のどこに行っても私を同じ1人の人間として見てくれたのです」と語ります。

その後、イギリスに呼ばれ世界的なエコロジー雑誌「リサーチェンス」の編集長をしたり、掃除や料理といった生活や行動から学ぶことを大切にしているシューマツハ・カレッジ、スモールスクールを立ち上げ、運営しています。

「もし私達がいかに食べ、座り、眠り、歩くかが分かれば、現代世界の諸問題は全て解決済みだと思います。私達の小さな行動が世界に多大な影響を与えているのです」と言います。そして何からはじめたらよいか？という問



いには「それは自分の食卓を見ましょう。その食べ物はどんな食べ物なのか？どうやって作られているのか？世界の諸問題を解決する第一歩は今日の食事からです」と答えます。食べものは、単に自分の健康や体のことだけでなく、世界の大きな諸問題に直結しているんですよ。

日本には、ナマケモノ倶楽部の辻信一さんの招きで何度も来日しており、私も聞きに行ったことがあるの

ですが、お年に関わらずパワフルで愛情に溢れる講演に感動をしました。辻さんが学生を連れてサティシュさんの学校へ体験入学した経験をまとめた本「最高の人生をつくる授業」も面白いですよ。